

## シグマ研究委員会崩壊熱評価ワーキング・グループ会合議事録

日 時 昭和53年4月21日(金) 13:30 - 17:30

場 所 原研本部 第35会議室

出席者 梅沢弘一, 松本純一郎(原研)

秋山雅胤(東大, 東海), 大竹 巖(動燃)

飯田正明, 村田 徹, 飯島俊吾(NAIG)

山田勝美(早大), 山本 徹(東北大), 中嶋龍三(法大)

### 議 事

#### (1) 一般報告

i) 本委員会議事その他の中で, 当ワーキング・グループに関連のあることを報告。

ii) 52年度後半におけるサブ・ワーキング・グループ会合について報告, これを了承した。

#### (2) サブ・グループ作業の経過報告と討論

##### i) yieldデータについて(梅沢)

Reider-Meak の compilation がマイクロ・フィッシュで入った。

核データ・センターに保管して貰うよう手配する。

##### ii) 重要核種の選定(村田, 山本, 飯田)

$^{235}\text{U}$ ,  $^{239}\text{Pu}$  の thermal fission で, 瞬時照射, 1年照射の場合, 1秒, 10秒, 100秒 ……  $10^9$  秒の冷却時間で, 全体の80%以上の寄与するものを選んだ。

D-CHAIN (田坂) では152核種, 47 A-chains

DHEAT-II (山本) では146核種, 45 A-chains

ORIGEN (飯田) でもほぼ同様だが, 数核種新しいものが加わる。

iii) 新しいデータの収集 (中嶋)

現在までに、約45核種、14 A-chains をほぼ完了したが、若干検討し直す必要のあるところもある。

(3) 今後の作業計画

i) 当初の予定では、6月末までに重要核種について新しいデータの検討を終了し、8月末までにさしかえ計算を終る、ということであったが、崩壊データの検討を6月末までに終ることは極めて困難である、ということになり、討論の結果、このタイム・スケジュールにあまり拘束されないで行なう、ということにした。ただし年度後半から末にかけては、多忙になるので、一応の結果は、53年内なるべく早く出すように努力する。

ii) サブ・ワーキング・グループ作業を主体にすることにした。

- ・ 処理プログラムの作成……………山本, 飯田, (松本), (山田)
- ・ さしかえデータの収集……………中嶋, 村田, (梅沢) (玉井)
- ・ 崩壊熱測定データの整備……………秋山, 飯田, (大竹) (飯島)

(4) 感度解析について (山本)

資料にもとずいて説明があったが、まだ2,3の問題点があるので、処理プログラム作成の段階で随時検討する。(たとえば、内部転換の取扱い、 $\beta$ の強度の問題、その他)

(5) 次回会合

8月初旬から中旬にかけて